

『あわじがいちばん!』
～知ろう、学ぼう、楽しもう～

子ども新聞



発行：社団法人淡路青年会議所



編集：社団法人淡路青年会議所 青少年育成委員会



永田 妃架莉
(ながた ひかり)

8月22日のあさはやくから『あわじがいちばん!』に、ちびっ子親善大使として友達にさそわれて参加した。淡路島の小学生が78人も参加した。大阪の人に淡路島のいちばんを知らせるために、かわらと玉ねぎとふきもどしとのりとせんこうと手のべそうめんと牛乳とをつたえにいった。

手のべそうめんのぷもんでは、

手のべそうめんをたべた大人の人が「淡路島の手のべそうめんはとびっきりおいしい」といっていた。私も手のべそうめんを食べたいなあとおもった。玉ねぎのぷもんでは、玉ねぎソテーと淡路牛をふるまった。食べている人を取材すると「淡路島の玉ねぎはあまくておいしいネ」や「淡路島の玉ねぎはおいしいから淡路島の玉ねぎしかかわないんだよ」といっていた。私は淡路島の子どもだから、淡路島の玉ねぎをほめてくれてすごくうれしかった。せんこうのぷもんでは、すごくいいかおりのする子どもたちの手作りのせんこうがいっぱいあった。そのせんこうをもらった人たちは「いいかおりのせんこうだね」といっていた。私ももってかえって



きんじょのおばあちゃんにもわたしたら「いいかおりで淡路島のせんこうはいね」っていわれた。淡路島サイコー！淡路島がいちばん！



田中 聡子
(たなか さとこ)

8月18日に私は牛乳部もんに行きました。初めに工場見学をしました。その時に牛乳の工場長さんが工場の事を教えてくれました。牛乳がこのようにつくりだされているなんて、初めて知りました。次に工場の事やぼくじょうの事をビデオで見ました。「こういうところではこんな事をしているんだな」と思いました。工場長さんから「なにかしつもんはないですか？」と聞かれて「牛乳はなぜ白いのですか？」というしつもんがありました。また「淡路島の牛乳はなぜしんせんなのですか？」というしつもんもありました。そして次にぼくじょうに行きました。牛のにおいがブンブンとしていました。牛の乳しぼりの前に牛乳の部もんのチラシを作りました。みんなかわいい絵をかいていました。そしてバター作りとチーズ作りもしました。バター作りはとってもたいへんだったけど、ビスケットにつけてたべたらおいしかった。チーズはかかりの人が前で作ってくれました。そしてまじにまった牛の乳しぼりをしました。とってもきもちよかったです。『あわじがいちばん!』でいろいろなところにべんきょうしに行けたので、とってもうれしかったです。

またこんなきかくがあつたらやりたいです。 淡路島がいちばん！

8月22日に『あわじがいちばん!』のぎょうじに私は友達といっしょにもうしこんで、大阪に淡路島の事をPRしてきました。私は観光のぷもんでした。淡路島のめいさんぶつたまねぎや牛乳やせんこうやかわらやふきもどしやのりや手のべそうめんを、ただであげたり食べてもらったりしました。

子ども達に「お客さんに何て言われた？」と聞くと手のべそうめんのぷもん



玉置 彩華
(たまき あやか)

淡路島には島特有の気候からできた特産品、あるいは古くから伝わる地場産業や文化などがあります。このようなどんな地域とも代え難い故郷である淡路島に住む子どもたちに、自分たちの住む淡路島への愛着を持ってもらおうと、『あわじがいちばん!』を開催いたしました。

「知る・学ぶ・楽しむ」というコンセプトのもと、まずは事前に部門別に分かれ、各々のワークショップにおいて淡路島の地場産業や特産品などについてしっかりと学習し、そしてちびっ子親善大使が全員揃って島外（大阪）に出てPRを行いました。まだまだ残暑の厳しい中、子どもたちの体調面が心配でしたが、そんな不安を吹き飛ばす程の子どもたちの積極性にはとても驚かされました。来場者の皆様からの暖かい言葉が子どもたちを勇気づけ、そして自分たちの住む淡路島をPRすることの楽しさを感じたからこそだと思います。実際に子どもたちが自ら進んで大きな声でPRしている姿を見て、嬉しくも頼もしくも感じました。きっとこの経験を通じて、子どもたちは以前よりもっと淡路島を好きになったことでしょう。そして淡路島の将来を担う子どもたちが、これからも自分たちの故郷である淡路島にいつまでも誇りを持ち続けて欲しいと思います。最後になりましたが、事前ワークショップなどの運営面などで多大なご協力をいただきました各業界の皆様、そして本事業にご理解を賜りお子様を送り出していただいたご父兄の皆様、心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

青少年育成委員会
委員長 後藤 英範



では「淡路島の手のべそうめんはすごくおいしいね」とか、玉ねぎのぷもんでは「淡路島の玉ねぎは本当にあまくておいしいね」とか、せんこうのぷもんでは「いいかおりだね」とか言われたと言っていました。

「むずかしかった事は？」と聞くと手のべそうめんのぷもんでは「早くわたさないとお客さんがいなくなるからむずかしかった」とか、のりのぷもんでは「形を作るのがむずかしかった」とかと言っていました。

私はこのぎょうじでおおくのみなさんが淡路島をよく知ってくれたと思います。私は本当にうれしくおもいました。

